

手術が難しかった「肩の広範囲腱板断裂」。
人工関節を回避できる新手術「EM法」に注目。

腕を上げるたびに痛む。夜、寝返りのたびに肩がうずく。そんな肩の不調を、年齢のせいと諦めている人は少なくない。しかし、その背景には「肩腱板断裂」という疾患が潜んでいるケースがあり、中でも腱板が大きく裂けた「広範囲腱板断裂」は、日常生活に深刻な支障をきたす一方、「手術が難しい」「人工関節しかない」と診断されることもある難治性疾患として知られている。こうした症例に対し、岡山旭東病院では、新たな治療選択肢として「Ex-Medialization（以下EM法）」に取り組んでいる。

副部長は現状をこう説明する。「腱板は、肩甲骨と上腕骨をつなぎ、腕を持ち上げたり回旋させる際に肩関節を安定させる重要な組織です。その腱が加齢や外傷などで断裂すると、痛みや脱力感、可動域制限を引き起こします。中でも広範囲腱板断裂は、断裂部が大きく縮み、従来の修復法では再断裂率が高いのが課題でした。EM法は、こうした難症例に対して行なわれる関節鏡視下手術のひとつで、数ミリ程度の小さな傷から内視鏡を挿入し、断裂した腱板を『やや内側へ移動させながら骨に再固定する』術式です。従来なら修復が難しいとされていた症例にも対応できる可能性があり、人工関節

を回避しつつ、自身の腱板機能を生かした回復を目指すのが大きな特徴です」。

「もう治らない」と諦める前に。
正確な診断と適切な治療を。

同院では2022年よりEM法を本格導入。2025年には42件を実施したが、腱板を内側へ移動させるため、術後に可動域や筋力面で一定の制約が残る可能性もあるという。しかし一方で、「肩を使つて働きたい」「スポーツを諦めたくない」という患者にとって、自分の関節を温存できる意義は大きい。特に65歳未満で人工関節の適応が難しい世代にとっては、有力な選択肢となっている。加えて同院では、診察当日にMRIやCTなどの画像検査を行なえる体制を整備。保存療法から手術、さらには術後リハビリまで、専門のスタッフが連携しながら一貫した診療を行なっている。

「肩の問題の多くは、適切な診断と治療で改善が期待できます」と語る江草副部長。痛みを抱えながら諦めるのではなく、自分らしい日常を取り戻すために。肩関節治療の最前線には、そんな思いに応えようとする医療がある。

整形外科 副部長
江草 真



お問合せ 岡山旭東病院
086・276・3231

NEWS

転倒予防健康教室 月1回開催／院内1階「パッチ・アダムスホール」

転倒を予防するには、日頃から運動を継続することが大切です。当院では、そのきっかけづくりとして、転倒予防健康教室を開催しています。整形外科の医師やリハビリスタッフが、転倒予防に役立つ情報や運動をご紹介しますので、お気軽にご参加ください。

7/21 (火) 14:00～15:00 「足の力を目覚めさせて転倒予防! 足趾のトレーニング!」 理学療法士

8/18 (火) 14:00～15:00 「肩について」 整形外科 医師 江草 真

「転ばない体作りで肩を守ろう!」 理学療法士

参加無料



お申し込みは電話番号
オンラインフォームから

086-276-3231
担当：企画広報室

オンライン
フォーム▶



イベントのご案内

当院では、健康教室や園芸教室、コンサート、展示会など、どなたでもご参加いただけるイベントを開催しています。ぜひお気軽にご参加ください。

岡山旭東病院
イベント情報▶



No.142

2026

7-8月号

1100円

(本体1000円)

おとな、暮らし、ときどきプレミアム

オセラ

心に余白を—

水辺と緑の カフェ&レストラン

心地よく、暮らしよく。

まち・みち案内
岡山県 矢掛町

大人のためのご馳走。

とっておきを探しに。

Doctor's Eye

